

## 小児がん経験者における治療終了後の課題と支援策

### —文献レビューを通して—

○ 山口県立大学 氏名 菱ヶ江 恵子 (008969)

キーワード：小児癌、治療後、文献研究

### 1. 研究目的

小児がんの治癒率は医療の進歩とともに向上しているが、小児がんを経験した者(以下、経験者とする)は、治療の影響により後に晩期合併症と呼ばれる新たな疾病を発症することや、進学・就職などの時期に小児がんの既往歴が影響を受けることがある。治療終了後の長期的な支援体制として長期フォローアップという仕組みがあり、経験者は定期的に医療機関を受診し、晩期合併症の早期発見に向けた検査を受けたり、困りごとや不安を医療スタッフに相談できる機会は存在する。しかし、未成年など若年者も含まれる経験者は、自身が抱く漠然とした不安や疑問について誰にどのように相談して良いかわからない可能性や、相談することをためらう可能性もある。

そこで本研究では、医療機関など支援者側が経験者を対象に、どのようなことを積極的に情報提供すると当事者にとって有益なものとなるのかを明らかにすることを目的に、治療終了後の課題としてどのようなものがあるのかを先行研究の確認を通して整理し、支援者側に出来得る支援について考察することとした。

### 2. 研究の視点および方法

研究対象とする文献の収集のために医中誌 Web(Ver. 5)を利用した。「小児がん」などの統制語である「小児癌」と「がん経験者」の統制語である「癌サバイバー」、および原著論文を AND 検索した。また「小児がん経験者」は該当するシソーラス用語が無かったため、「小児がん経験者」と原著論文で AND 検索した(最終検索日:2023年2月14日)。

検索してヒットした文献は146編であった。その後、タイトルと抄録を確認し、治療終了後の課題に言及されている論文を収集した。ただし、親やきょうだいなど本人以外を対象とした研究、治療方法に関する研究や症例報告など、本研究の目的に一致しないと判断した文献は除外し、最終的に37編の文献を研究対象とした。

まず、収集した37編の文献を概観し、各文献の研究テーマを確認して類似するテーマごとに分類した。その後、テーマごとに文献の内容を確認し、経験者が治療終了後に直面する可能性がある課題とその研究内容について確認した。

### 3. 倫理的配慮

研究にあたっては「一般社団法人日本社会福祉学会研究倫理規定」および「日本社会福祉学会研究倫理規定にもとづく研究ガイドライン」にのっとり研究を実施した。なお、本発表に関して開示すべき利益相反関係にある団体等はない。

### 4. 研究結果

収集した37編の文献をテーマごとに分類した結果、【長期フォローアップ】、【晩期合併症】、【移行期医療】、【セルフケア（ヘルスプロモーション含む）】、【病気受容】、【心理的成長とレジリエンス】、【復学】、【就労（就学含む）】、【患者会】、【恋愛・結婚・妊孕性】、【心理社会的問題】、【退院後の困難】、【その他】の13テーマが生成された。なお、複数のテーマにまたがって研究が行われている文献もあった。

最も多かった研究は【就労（就学含む）】に関するもので9編であった。そのうち、益子(2012)の研究では採用試験に際して経験者であることを企業側に伝えたために不採用になった事例や、既往歴を面接官にどのように伝えたらよいのかを思い悩んだ事例の存在を明らかにしていた。また小児がんの既往がある場合、5.4%の企業が書類審査の段階で不合格にするという研究もあり(石田・浅見 2014)、経験者にとって既往歴を開示するか否か、開示するとすればどのように説明するのかが課題になる可能性が示された。

【恋愛・結婚・妊孕性】に関する研究では、AYA世代となった経験者が恋愛に消極的になった語りや、医療者からの妊孕性に関する情報提供の必要性を指摘する語りなどが示されており(京盛ら 2018)、経験者が子どもから大人になっていく過程では新たな課題が生じる可能性が示された。

### 5. 考察

経験者が治療終了後に直面する課題は、医療的な側面に限らず心理・社会的側面に関する課題も存在している。支援者は医療に関する情報の提供はもとより、それ以外の就労や恋愛など、社会や他者との関係性に関する課題も含めて、医療機関内外と連携しながら情報の収集および体系的な情報提供ができる体制を整備することが大切であると考えられる。

謝辞 本研究はJSPS 科研費 JP20K13737 の助成を受けた研究の一部である。

参考文献：石田也寸志・浅見恵子(2014)「小児がん経験者に対する社会的偏見の実態調査」『日本小児科学会雑誌』118(1),65-74.京盛愛枝・波崎由美子・上澤悦子(2018)「AYA世代にある小児がん経験者のがん治療体験による恋愛や結婚、親になることへの過程 マス터리理論による半構造化面接を実施して」『日本生殖看護学会誌』15(1),27-35.益子直紀(2012)「小児がん経験者の就職における体験 ライフストーリーの分析から」『日本看護学会論文集：成人看護 II』42,236-239.